

別表第 4 施工管理記録様式

目 次

様 式	名 称	頁
	(出来形管理関係)	
1	出来形管理図表 品質管理図表 (表紙)	179
2-1	出 来 形 管 理 図 表	180
2-2	度 数 表	181
3-1	測 定 結 果 一 覧 表	182
3-2	鋼 管 溶 接 測 定 結 果 一 覧 表	183
3-3	鋼 管 溶 接 、 塗 覆 装 点 検 表	184
3-4	管 水 路 ジ ョ イ ン ト 間 隔 測 定 結 果 一 覧 表	185
3-5	埋 設 と う 性 管 た わ み 量 管 理 表	186
3-6	ゴ ム 輪 位 置 管 理 表	187
4	杭 打 ち 成 績 表	188
	(品質管理関係)	
5-1	\bar{X} -R管理データシート	189
5-2	\bar{X} -R管理データシート	190
5-3	\bar{X} - R管理図	191
6-1	X-Rs-Rm管理データシート	192
6-2	X - Rs - Rm管理データシートの2	193
7	X - Rs - Rm管理図	194
	(統一化様式)	
様式31	出来形管理図表	195
様式31-2	出来形合否判定総括表	196
様式32	品質管理図表	197

(出来形管理関係)

様式 1

令和 年度	工事
出来形管理図表	
品質管理図表	
種 目	
広域本部	広域振興局
	受注会社名

注) 1. 出来形(品質)管理図表は、本表紙様式により、工種毎に綴るものとする。ただし、小規模工事については、監督職員の承認を得て、全工種分を一括綴りとすることができる。
2. 種目は、基準高、厚さ、幅等と記入する。

出来形管理図表

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____

管理基準値 A		規格値 B		測定 単位
+	-	+	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A - E	設計値との差	

記入事項 1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。 2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。 3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。 4. 設計値との差の単位を定め、目盛りに数値を記入する。 5. Fを算出する A 値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、 A 値が+側か-側の片方、若しくは両方になく場合は、その符号側はF=「-」とする。	測定箇所図

様式 3-1

測定結果一覧表

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

管理基準値 A	規格値 B	測定 単位
+	+	
-	-	

管理基準値 A	規格値 B	測定 単位
+	+	
-	-	

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A-E

番号	月日	測点	設計値 C	実測値 D	設計値 との差 E=D-C	管理基準 値との差 F= A-E

記入事項

1. 「工種名」は、掘削(基準高(V))、フルーム(厚さ(T))、橋台工(中心線のズレ(e))等と記入する。
2. 「番号」の欄は、施工順位を記入し、「測点」の欄は当該測点番号を記入する。
3. 「月日」の欄は測定年月日を記入する。
4. Fを算出する|A|値は、E>0の場合は+側の値を、E≤0の場合は-側の値を用いる。また、|A|値が+側か-側の場合、その符号側はF=「-」とする。

鋼管溶接測定結果一覧表

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

測定位置	実 測 値				管理基準値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

様式 3-3

鋼管溶接、塗覆装点検表

工事名 _____

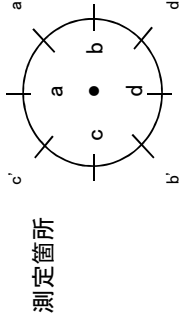
受注会社名 _____

測定者 _____

測定位置	工 種	項 目	判 定		摘 要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

管種名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)				管理基準値	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				(参考) 規格値	判定	備考	
			a	b	c	d					平均	a	b	c				d



測定箇所

- 注 1. 管理基準値は接合時の値であり、4箇所の平均とする。
 2. (参考)規格値は埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。
 3. 測定は、呼び径700mm以下の場合は管の外から測定しても良い。
 また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径700mm以下の測定は必要ない。
 4. 管の外から測定する場合の測定位置は、a'、b'、c'、d'の位置とする。
 5. 強化プラスチック複合管のD形の場合は、受口側と挿口側を各々測定すること。

<記載例>

測定位置	測定値			
	a	b	c	d
NO.00受(受口側データ記載)				平均

(参考)
 標線による計測 ジョイント間隔＝受け口長 l_2 －(標線長 h －測定長 x_1)
 標線によらない計測 ジョイント間隔＝受け口長 l_2 －(管有効長 l －測定長 x_2)

埋設とう性管たわみ量管理表

工事名 _____

受注会社名 _____

管種(長さ) _____

測定者 _____

測定位置 (管番号)	管据付時				管頂埋戻し時				埋戻し完了時				D+t(mm) (内径)(管厚)
	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	D _U mm	たわみ率 %	D _h mm	たわみ率 %	

たわみ率の計算

$$\frac{\Delta X}{2R} \times 100(\%)$$

$$\Delta X = [2R - (D_U + t)] \text{ 又は } [2R - (D_h + t)]$$

2R: 管厚中心直径

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
 2. 測定については「土木工事施工管理基準」別表第1 直接測定による出来形管理 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。
 3. 矢板引抜き時の測定は、「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

様式 4

杭打ち成績表

工事名： _____ 受注会社名： _____

工種名： _____ 測定者 _____

杭打込み 月 日	杭番号	杭規格	測定時 杭深度(m)	ハンマー 落下高(cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下 量(cm)	支持力(kN)	摘要

杭配置図 _____

適用公式名： _____

設計支持力： _____

(品質管理関係)

様式 5-1

\bar{X} - R 管理データシート

工 事 名 _____ 受注会社名 _____
 工 種 名 (名 称) _____ 測 定 者 _____
 項 目 名 (品 質 特 性) _____ 作 成 者 _____

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量	
	上 限	下 限		資 料 大 き さ	
	+	-		間 隔	
				作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範 圍 R			
			X_1	X_2	X_3						
		1									
		2									
		3									
		4						平均	\bar{X}	\bar{R}	
		5						累 計			
小計								小 計			
		6									
		7									
		8									
		9						平均	\bar{X}	\bar{R}	
		10						累 計			
小計								小 計			
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19						平均	\bar{X}	\bar{R}	
		20						累 計			
小計								小 計			

(注)
 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記 入 要 領

- 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
- 「月日」の欄は測定年月を記入する。
- 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
- 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

様式 5-2

\bar{X} - R 管理データシート

工 事 名 _____ 受注会社名 _____
 工 種 名 (名 称) _____ 測 定 者 _____
 項 目 名 (品 質 特 性) _____ 作 成 者 _____

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
	+	-	

日 標 準 量	
資 料	大 き さ
	間 隔
作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平 均 値 \bar{X}	範 圍 R				
			X_1	X_2	X_3							
									平 均	\bar{X}	\bar{R}	
									累 計			
小 計									小 計			
特 記												
(注)	1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。											
記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。 2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。 3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。 4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。											
	n	d_2	A_2	D_4								
	2	1.13	1.88	3.27								
	3	1.69	1.02	2.57								
	4	2.06	0.73	2.28								
5	2.33	0.58	2.11									

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大 き さ	現場代理人		
	下限値		間 隔	測 定 者		
設計基準値		作業機械名		作 成 者		

月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平 均 X	移 動 範 囲 Rs	測 定 値 内 囲 Rm	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
		a	b	c	d						X	Rs	Rm	
	1													
	2													
	3													
	4									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	5									累計				
	小計									小計				
	6									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$		$D_4 \cdot \bar{R}_m =$		
	8									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計									累計				
										小計				
	9									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13									累計				
	小計									小計				
	14									$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17													
	18													
	19									平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20									累計				
	小計									小計				
記 事										n	d ₂	D ₄	E ₂	
										2	1.13	3.27	2.66	
										3	1.69	2.57	1.77	
										4	2.06	2.28	1.46	
										5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。


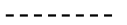
(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X - Rs - Rm 管理データシート の 2

月日	試験 番号	測定値計					平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内 の範囲 Rm				
		a	b	c	d	Σ							
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
											X	Rs	Rm
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
記事										n	d ₃₁	D ₄	E ₃
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考)  管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 \bar{x} を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 7

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値 名称	品質特性	測定単位	測定方法	作業機械名	工日	工事標準		名量	事業所名	年月日
						日	標準			
					規格限界	上限値	下限値	受注会社名		
					試料	大きさ	間隔	現場代理人		
X										
Rs										
Rm										
組の番号										
記事										

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理シートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

(統一様式名称：様式-31)

出来形管理図表

工種

種別

測定者

測点	測定項目		規格値		測定項目		規格値		測定項目		規格値		略
	設計値	実測値	設計値	差	設計値	実測値	設計値	差	設計値	実測値	設計値	差	
設計値との差													
0													
平均値													
最大値													
最小値													
最多値													
データ数													
標準偏差													

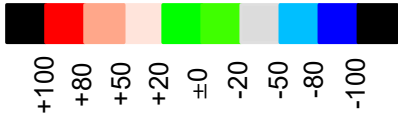
出来形合否判定総括表

工 種

測点

種 別

合否判定結果

測定項目	規格値	判定	測 点		
					<input type="checkbox"/> 天端
天端 標高較差	平均値 最大値(差) 最小値(差) データ数				
法面 標高較差	平均値 最大値(差) 最小値(差) データ数 評価面積 棄却点数				

(統一様式名称：様式-32)

品質管理図表

工種 _____

種別 _____

測定者 _____

測点	測定項目		規格値		測定項目		規格値		測定項目		規格値		略
	設計値	実測値	設計値	差	設計値	実測値	設計値	差	設計値	実測値	設計値	差	
設計値との差													
0													
平均値													
最大値													
最小値													
最多値													
データ数													
標準偏差													